

4月7日に発令された【緊急事態宣言】から ひと月余りが経ちました。それを受けて自粛要請期間が開始され、保育園内の景色は 経験したことのない寂しさに 溢れています。要請について、ご理解・ご協力頂いております各ご家庭の皆様に 御礼申し上げます。またこの大変な中に在って、仕事に出られなければならない保護者の皆様のご健康とお動きが神様に支えられ 守られますよう 心からの願いを込めて 感謝と共に お祈りしております。3分の1ほどの少ない登園人数の子ども達ですが、離れ離れになっている大好きな仲間を事ある毎に思い出している様子が 神様にお祈りしながら、また一緒に遊べる日を楽しみに心待ちにしている毎日です。「神様が コロナに 色をつけてくれれば良かったのにね!」「そしたら すぐわかるし 教えられるし 逃げられたのにね」と 子ども達と話したことがあります。本当にそう思います。“目に見えない・判らない”ということが人間にとってこんなにも不安を煽り 脅威をもたらすのだと、今更ながら 心に重くのしかかっています。まだまだ 忍耐の時は続きそうですが、愛する子ども達の笑顔を絶やさないう、何よりも小さな一人一人の命をしっかりと守るために、職員一同 心を合わせ、力を尽くして参ります。

“ 神様は 乗り越えられる試練しか与えない ”

新型コロナ禍の影響により、エンターテインメント業界でも 舞台やドラマ等の制作や収録が中止され、最近では かつての再放送や再編成の特別番組のオンエアが多くなっていますね。上記の言葉は 約20年前の村上もとが氏原作の医療漫画で、その10年後に映像化されたTBS 系列ドラマ『JIN - 仁 -』の中で語られた、今も名言と言われている台詞の1つです。現代から幕末へタイムスリップした 一人の医師の人生、その活躍を描いた内容なのですがSFや時代劇の要素も交じり合っていて、当時 私自身も大好きで夢中で観入っていました。2回目の完結編シリーズは、東日本大震災の直後だったこともあって 登場人物それぞれの生き様や 交わし合う言葉を通して、生きることの意味・人としての在り方・命の尊さなど 観る度に 励まされ慰められました。特に この台詞は 聖書にも通じ、力を与えられました。そして今回、この状況下での再放送！ ご覧になられた方もいらっしゃると思いますがコレラ（江戸時代は“コロリ”と呼ばれていたそうです）の流行に 病院は患者達であふれ 混乱する人々の中で、何とかして救おうと一丸となり 挑み続ける医師達の姿勢と使命感は、まさに この瞬間も、コロナとの闘いに 命がけで尽くしている 医療現場の方々そのものと胸を撃たれ 涙が出ました。「助けてあげてください。国のため、道のために。」の台詞が印象的でした。一人一人の命こそ 国の財産であり、この世で最も重く高価で貴い宝であり、その命を 最期まで大切に愛しむことが、人としての道であることを 改めて痛感しました。

およそ4か月前、2020年の幕開けの朝、希望と期待を抱きながら 新しい歩みを想いそれぞれのスタートラインに立った私達は まさかこの直後に、世界中の人々を不安に陥れ、命を脅かす、目に見えない不気味な“敵の襲来”によって、世界が 突然に一変してしまうなどと、誰一人として予想することはできませんでした。温かなふれあいや 笑顔、会話、当たり前前の日常がこんな形でこんな風にいきなり奪われるなどと思ってみませんでした。けれども神様は 私達人間に“乗り越えられる試練しか与えません。”必ず訪れる光を信じ、今、私達にできることは 自分を愛するように人を想うこと。心を一生懸命使って想うこと。優しさをもって想い合うこと。その愛が 個々の自覚と責任ある行動へと変えられる筈です。互いの命を守るために！感染しない・させないために！医療現場を崩壊させないために！コロナで失われた尊い命を無駄にしないために！人々がもう一度元気を取り戻すために！

この自粛期間を、子ども達と共に考え合い祈り合う意味ある機会として 一人一人の心に 静かに寄り添う時にしたいと思っています。すべての人に神様の平安を祈りつつ。（石田 記）

「神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。

むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。（1コリント 10:13）」